



第210回 清陵勉強会



『台湾の歴史 大全－基礎から研究へのレファレンス』 ができるまで－「書誌学」からの舞台裏－

2025年10月28日(火) 19:00~20:30

*ハイブリッド開催

会場: TIME SHARING Biz 品川A【品川駅5分】
東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル地下1階

講師: **春山 明哲氏**(68回生) 早稲田大学台湾研究所招聘研究員
日本台湾学会名誉理事長

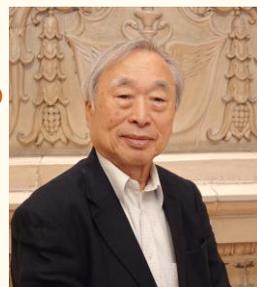
演題 『台湾の歴史 大全－基礎から研究へのレファレンス』
ができるまで －「書誌学」からの舞台裏－

2025年2月、『台湾の歴史 大全－基礎から研究へのレファレンス』(春山明哲、松田康博、松金公正、川上桃子編)が藤原書店より出版されました。本書は、先史時代から現代までの全史を対象として、台湾史及び関連する学際領域の研究者65人が結集して編んだ、台湾の歴史に関する基本的な文献であり、副題にあるとおり、歴史・地域研究の基礎知識から研究入門にいたる、総合的なレファレンス・ブックを目指して編集されたものです。

本書の「あとがき」において、編者を代表して「レファレンス・ブック」とはなにか？ 本書刊行までの歩みについて、ごく簡単に触れました。このプロジェクトは、第1期2008～2010年 アイディアの芽生え、第2期2011～2016年 早稲田大学における調査研究、第3期2017～2019年 研究史レビュー、(2020～2022年春 コロナ・パンデミックによる中断)、第4期2022～2024年 企画・編集の再開、といったプロセスを経て、ほぼ17年をかけて本書の刊行に漕ぎ着けました。

「書誌学」という分野があります。多義的な言葉ですが、そのひとつに「ある本がどのように作られたか」という、いわば「書籍の誕生」についての歴史的な物語です。私は近年「学問の歴史」に関心を持っていて、その問題系として「人はなぜ本を書くのか」、「なぜこんな書物ができたのか」という問いを立ててきました。今回は、書誌学的方法により、本書誕生の舞台裏を、私の台湾紀行にも触れながら、ご紹介したいと思えます。

春山 明哲
(はるやま めいてつ)



略歴

1946年東京生まれ。目黒から60年長野県富士見町に移り、上諏訪中学校を経て、65年諏訪清陵高校卒業、71年東京大学工学部卒業、工学系研究科(応用化学)修士、博士課程中退。1974国立国会図書館に入り、調査局のレファレンス、「関西館構想」、納本制度改革、国会分館長、調査局主幹・専門調査員を経て2007年退職。以後、早稲田大学台湾研究所研究員、日本台湾学会理事長、台湾・国立政治大学客員教授、一橋大学大学院講師などを歴任。1973年以来、台湾近現代史研究会、日本台湾学会、早大台湾研究所、国際日本文化研究センターなどにおいて、霧社事件、日本の台湾統治政策、後藤新平、岡松参太郎などの研究を進め、現在にいたっている。著書に『近代日本と台湾』(藤原書店、2008)、『後藤新平の「衛生の道」とは何か』(同、2025)。

<第210回清陵勉強会 開催概要>

日時: 2025年10月28日(火) 19:00~20:30 (質疑応答を含む)*ハイブリッド開催

会場: TIME SHARING Biz 品川A【品川駅5分】
東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル地下1階

<https://www.google.com/maps/place/35%C2%B037'56.6%22N+139%C2%B044'16.6%22E/@35.6323983,139.735372,17z/data=!3m1!4m4!3m3!8m2!3d35.6323983!4d139.7379469?entry=ttu>

会費: 会場、ZOOM参加ともに 500円(懇親会参加者は別途3,500円)
*リモート参加の学生は無料です

申込: ご出欠を10月24日(金)までに下記メールフォームにてお知らせください
ZOOM参加希望の方には前日までにリンクをお送りします

<https://forms.gle/kbnWLuNKQaVRDaEW6>

お問い合わせ

清陵勉強会事務局 seiryobenkyokai@gmail.com